

主婦の願いを社会に反映させていきたい



◎ 日本主婦連合会
の揺るがぬ信念

我ら日本主婦連合会は戦後の食糧危機を出発点とする、消費者保護運動の草分けであり、政府や企業と府民を結ぶ「かなめ役」だ。

信念は「一家庭の主婦

◎ 各家庭の願いを
少しでも

そして、草創期から取り組む食品や、生活の用具（必需品）、その他、化粧品などに至るまでの安全性に加え、狂牛病の

私の主張

日本主婦連合会会長
東瀬 幸枝

が、しっかりしておれば日本は決して滅びない」と、自信たっぷり豪語している。

また、企業の考えを理解した上で、生活者の視点から発言を行い、先を読むことも大切である。

日本民族としての明るい暮らしを

危険性やバイオマスについて早くから提言してきたのである。

現在、ここにきて日本人の「良さ、誠実さ」はどうなっているのだろうか？

それは、消費者自身の心を育てて行くと云う、私自身があらたな、使命を感じてきたのではないだろうか。

また、他のことで古いと思われても「道徳・公共性」という言葉を必ず話に入れることが、多くなってきたように思える。

◎ 日本の母親が
歌う子守り歌

また、かつて母親が、我が幼い子どもを抱きしめ、うたって育てた「子守り歌」を「教育の原点

として見直してほしい」と何度も「ペン」で訴えて来たのである。

「純粋な大阪っ子」でもある私は、「見て見ぬふりのできない、なにわ氣質の持ち主」であって、現在でも「困ったことがあれば、夜中でも話を聞いてあげ、その翌日には解決した」など。人生経験と柔らかな言葉で、中央省庁などと渡り合っている。

◎ 我が日本国を
背負う子供の
母よ、がんばれ!!

孤独感と無力感の広がる日本の社会は「台所的主婦」の底力によって「天下の台所」として変化し、世界一の日本民族であることを、心から希ってやまない。